

## 平成 23 年 5 月 13 日 記者会見 質疑応答（東京）

発表内容：平成 22 年度 決算について

日 時：平成 23 年 5 月 13 日（金） 15 時 30 分～15 時 51 分

場 所：日銀金融記者クラブ（東京）

発 表 者：細谷会長、中村執行役、野村執行役

### 【質疑応答】

#### Q. 今期決算への震災の影響は？

A. お客様の動向については、きめ細かに情報を集めておりますが、今の段階では、確たる見通しは立てにくいということです。ただ、ものづくりメーカー等の復興のテンポは、当初予定よりは前倒しになっていきますし、7-9 月期に日本経済がプラスになるということであれば、りそなグループに対する影響度はさほど大きくないのではないかと思います。また、りそなの場合、仙台地区には住宅ローンのお客さまが多くいらっしゃいますが、保証会社で被災地の航空写真から被災状況を推計した理論値で、30 億円強の引き当てを行っております。そのため、今期与信費用が更に大きく増加することは、現状、想定しておりませんので、与信費用は業績見通しの水準でコントロールできるのではないかと見ています。

#### Q. 資本再構築プランへの影響は？

A. できるだけ早期に剰余金を積み上げて次の返済に取り組みたいと考えていますが、当面はバーゼルⅢの国内基準がどのような形になるかなどの動向を睨みながら今後の返済計画の具体的なスケジュールは検討していきたいと思っています。

#### Q. 今期のトップラインをあげていくために具体的に何に取り組んでいくのか？

A. この低金利の状況がここ 1 年 2 年で変わることは見込めないもので、シェア争いに勝っていくためにサービスの質を向上させることをベースに考えています。貸出のボリュームが大きく増えるということが期待できませんので、健全化計画でもお示したように、クロスセールス力を高めていくこと、信託機能という強みをグループをあげて活用していくこと、従いまして、法人、個人ともフィービジネスにおいてしっかりとトップラインの数字をあげるような営業努力を続けていきたいと思っています。

#### Q. 足元のマーケットを見ると法人、個人とも萎縮していてフィービジネスは難しいのではないか？

A. これだけマーケットが変動しますと、お客さまも慎重になられるのは当然の流れと思われませんが、資金的には個人向け国債の満期償還などがあり、着実に預金の積み上げのトレンドは続いています。やはり、時代にあった金融商品、お客さまのニーズにあった商品を提供していくことが大事だと思います。また、法人のお取引は、中小企業の事業承継や M&A のニーズが高まってきていますし、信託機能を活用する年金信託など様々なニーズが高まっていますので、りそなならではのサービス力を強化することで一つずつ収益を積み上げていくしかないと思っています。そういう意味では、これから銀行界のサービス力の本格的な競争の時代に入るのではないかと見ています。

**Q. 震災以降、手許流動性確保などの企業の資金需要はどれくらいの規模であったのか？**

A. りそなの場合、大企業取引は限定的であります。この間、コミットメントラインや当座貸越の見直しのご相談などいろいろありました。現実の資金ニーズとしては1,000億円強でした。ただし、3月～4月の売上減少に対応した、手形の決済等の資金ニーズは6月頃のご相談となると思います。そういう意味では、ここ数ヶ月のお客さまのご相談の内容をしっかりと受け止めて、今後の対応をしていかなければならないと思っています。

**Q. 震災後の日本経済のリスクについてどう見ているか？**

A. 日本人というのは目標が明快であると本当に頑張れる国民性だと思いますので、生産機能の復活は前倒しでどんどん進んでいくと思っています。従いまして、7-9月期くらいにはGDPがプラスの水準に戻る公算が非常に高いのではないかと考えています。ゴールデンウィークの後半から人の動きも良くなっていますし、ホテルの稼働率等も回復基調に入っていますので、私はそう悲観的には見ていません。また、来年に向けて国のリーダーの交代や選挙という政治的ビジネスサイクルの季節に入りますので、米国、中国が景気を悪くするリスクが少ないことから、来年の前半までは緩やかな回復基調が続くのではないかと考えています。来年の後半以降、本当にこの国の成長力を問われる場面になったときに、この国の経済がどうなるかというのは相当慎重に見極めていかないといけないと思います。そういう意味では、短期的には悲観的に見えないが、中長期的には相当心配しながら見ているというのが私の個人的な見方です。

以上